

立野ダム対策特別委員会 島根県益田川・笹倉ダムを視察

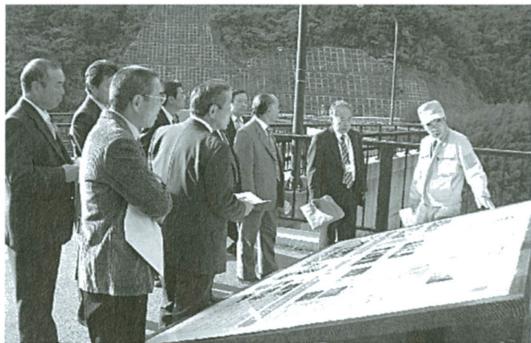
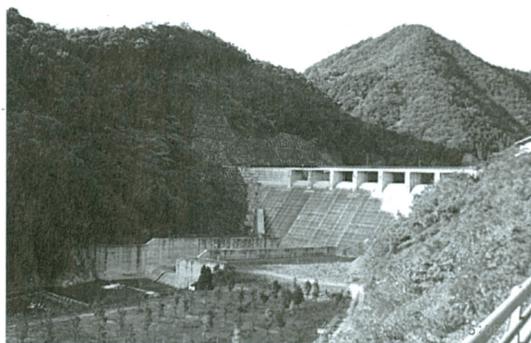
平成21年11月12日・13日の2日間島根県益田川ダム、笹倉ダムの視察研修を行いました。

このダムは、立野ダムと同じ目的であります洪水調整ダムで、ダムの完成により安全で安心して暮らせることを目的とした事業でありました。益田川ダムが平成18年3月に、また、笹倉ダムが平成19年3月に完成しています。

現地にて、島根県益田土木建築事業所の村上課長より、過去の災害状況・ダムの構造・事業内容等の説明を受けました。

全国でも洪水調整ダムは数が少なく、参加した委員一同始めての現地研修ということで大変勉強になりました。

今後は、下流域市町村との連携を図っていききたいと考えています。



益田川ダムの構造

益田川ダムは、自然調節方式のダムで常用洪水吐を河床に設置し通常は水を貯めないダムです。そのため、上流から流下してくる土砂を流水と一っしょに下流へ排砂するとともに、益田川に生息する魚類もダム上流に遡上することが可能で、全国的にも珍しい構造となっています。

益田川ダムの大きな特徴は、常用洪水吐（ゲートなし、2孔）を河床部に設置したことです。そのため、平常時は貯水池に貯留せず流下してくる土砂を流水と一緒に下流に排砂し、また、益田川に生息する魚類がダム上流に遡上することが可能な構造となっています。

南阿蘇村の宝物さがし！ ③

地蔵峠へ続く、グリーンロードから望むことが出来る先阿蘇火山岩類の「岩脈」である。ここでは、3本が南北方向に走り、村内に5本確認されている。

これは地層や岩石の割れ目にマグマが貫入して固まったもので幅が5mほど、特徴は「節理」と言うひび割れがあり、貫入方向に対して垂直に出来ている。



これと同じ「岩脈」を、高森の、らくだ山や根子岳で見ることが出来る。長い年月の浸食で出来たもので、もしマグマが地上に吹き出していたら、火山になっていたかも知れない。今では、県の防災ヘリの訓練の場でもあり、日本ジオパークのジオサイトのひとつでもある。

消防の山岳救助隊の訓練

